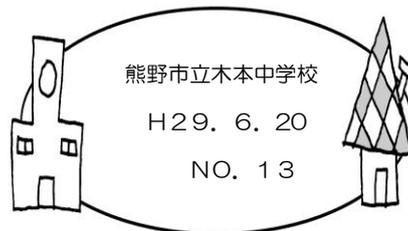


# 3年生通信

熊野市立木本中学校

H29. 6. 20

NO. 13



## 防災ウォークラリーのようす

6月17日（土）晴天に恵まれ、予定通り防災ウォークラリーを実施することができました。

3年生の様子や感想などをお伝えします。

地域の方は自分の家に何が  
あるかを把握していたり、避難ル  
ートを3つくらい決めていた  
のですごいと思った。



高台に逃げる途中の道が  
急で、自分でも少しえら  
かったのが、体力がない  
人には辛いかもしれない  
と思った。



私はできるだけ高  
いところに逃げて  
絶対に助かりたい  
と思った。

一回家族で話をしてみたり、必  
要な物をいろいろまとめて、す  
ぐにもって逃げられるように、玄  
関に置いておいたりしておきた  
いと思いました。

常に津波が来ることを意識  
して、地震が起こっても冷静  
に対処できれば良いと思  
った。

防災は大変重要なこと

次は地域全体  
で防災ウォ  
ークラリーや避  
難訓練をし  
たら良いと思  
います。



大地震や大津波が発生したときはまず自分の命を守  
って家族が生きていると信じて高台に避難すればいい  
と思いました。家族みんなでどうするかを決めることが大  
切だと思いました。



地域の人にも班のみんな  
が大きな声であいさ  
つなどができていたの  
でよかったと思う。片倉  
公園ではいろんな遊具  
が倒れないかなどみんな  
で考えあった。

防災ウォークラ  
リーをしていないと  
地形が分からないし、避難する場所も  
わからないし、どこ  
になにがあるかも  
わからない。

発電機は半年に一  
回チェックされて  
いた。発電機は予  
想されている13  
mの津波より海抜  
の低い所はおかれ  
ていなかった。

避難場所は高いところなので、子どもやお年寄  
りには大変な場所が多いなと思いました。だから、若い世代の自分たちがもっと避難しやすく  
するための対策法を考えなきゃいけないと思  
いました。

地域の人に挨拶したらみんな笑って返してくれた  
のでうれしかったです。今度からもしよ  
うと思います。



防災ウォークラリーを終えて、思ったことは、小さい時からいつものように遊んでいた場所や道を、防災について視点を変えて見ると、手すりが低かったりコンクリートのブロック壁が倒れてきそうで、こわい場所もあったりして、普段は何もなく、普通な場所が地震や津波などの自然災害が起こった場合、改めて見ると、災害のときに危ない場所がたくさんありました。…備蓄倉庫の中にはあまり物が入ってなくて不思議に思っていたら、各倉庫ごとにいろいろな違うものが入っていて、役割が決められているんだなと思いました。

私が防災ウォークラリーを通して気づいたことは、木本町、井戸町は少し危ない場所が多いと思いました。看板が落ちてきそうな場所、段差のある場所、子どもや、お年寄りの人たちが気をつけて通らないといけない場所、坂道が急で手すりがついていなかったり、道がガタガタだったりしている場所があったので、防災の面から見ると、木本町、井戸町は、もう少し直す必要のある場所があるかな？と思いました。また、もし実際に大地震、大津波が発生したときの場合のために、親と避難場所がどこなのか、家はくずれないか、家具の固定をしっかりとしておくということを、確認しておかないと、と思いました。…これから、いつでもおきるかわからないので、日頃から準備をし、いざとなったときに、おちついて行動、判断ができるようにしていきたいと思います。

日差しが強く、熱い中でみんな頑張って地域を歩きました。

あらためて地域を防災の目でみつめることで、新しい発見もたくさんあったようです。

私が小学生の頃から、東海地震はいつ来てもおかしくないなんて言われてきました。

それから、はや20年…阪神大震災があり、新潟中越地震があり、東日本大震災があり、熊本でも震災がありました。

このまま東海地震だけが来ないなんてことは、ないでしょう。

人は不思議なもので、あったら困ることは『自分に限って大丈夫だろう◎』という心理になります。

あったら嬉しいことは『もしかしたらあるかもしれない◎』なんて思います。

地震は、科学的な目で見ても、必ず来ます。

どうか意識を高く持って、いざというときに一人ひとりが自分の命を守れるよう、正しい判断をしてくれることを祈るばかりです。

生徒会の人からの呼びかけがあったとおり、『この学校から犠牲者を出さないように』物の準備、知識の準備、気持ちの準備をしっかりとしていきます。

### ＜お家の方へ＞

ご家庭でも、今一度子どもたちと一緒に災害に対する備えを考えていただければと思います。

「大事な人は必ず自分の力で避難している。だからきっと大丈夫。」

そう信じられることが、自分の命を一番に守る行動にもつながります。

大切な子どもたちの命と尊厳が守られるよう、今後とも連携して考えさせていただければと思いますので、よろしくをお願いします。